

令和7年度 足立区地域包括ケアシステム推進会議 第1回 はつらつ高齢者部会

日時：令和7年7月25日（金）

午前10時～正午

場所：足立区役所1203会議室

次 第

1 開 会

2 協議事項

- (1) 「はつらつ教室」の再構築に向けた検討について
- (2) 「みんなで元気アップ教室」の再構築に向けた検討について

3 報告事項

- (1) 「あだち脳活ラボ」の利用状況および新たな取組について
- (2) 令和7年度「高齢者栄養施策推進事業」の取組について
- (3) 生活支援体制整備事業の取組状況について

4 その他

今後のはつらつ高齢者部会の日程について（案）

第2回：令和7年11月19日（水） 午前10時～正午

第3回：令和8年 2月 9日（月） 午後2時～午後4時

※ 会場はいずれも足立区役所南館12階 1204会議室

5 閉 会

令和7年度 足立区地域包括ケアシステム推進会議

はつらつ高齢者部会 委員名簿

※ 敬称略、順不同

番号	役職	氏名	フリガナ	選出団体名	所属における役職等	出欠
1	部会長	酒井 雅男	サカイ マサオ	銀座ヒラソル法律事務所	弁護士	
2	副会長	山中 崇	ヤマナカ タシ	東京大学医学部附属病院老年病科	特任研究員	欠
3	委員	賀川 幸英	カガリ ユキヒデ	足立区医師会	副会長	
4	委員	佐藤 浩史	サトウ ヒロフミ	東京都足立区歯科医師会	常務理事	
5	委員	廣島 高志	ヒロシマ タシ	足立区介護サービス事業者連絡協議会	通所部会部会長	
6	委員	小浦 梓	コウラ アズサ	東京都栄養士会足立支部	副支部長	
7	委員	山ノ内 聖一	ヤマノウチ セイイチ	あだちPOSネットワーク	世話人	
8	委員	内山 清	ウチヤマ キヨシ	足立区シルバー人材センター	理事	
9	委員	堀 崇樹	ホリ タキ	足立区社会福祉協議会基幹地域包括支援センター	東部課長	

令和7年度 地域包括ケアシステム推進会議
第1回 はつらつ高齢者部会

令和7年7月25日

件名	「はつらつ教室」の再構築に向けた検討について		
所管部課名	福祉部 高齢者施策推進室 高齢者地域包括ケア推進課		
内容	<p>以下のとおり「はつらつ教室」における課題を整理し、令和8年度以降の事業再構築に向けた検討を行う。</p> <p>1 はつらつ教室の概要</p> <p>(1) 事業の目的 地域の高齢者が主体的かつ継続的にフレイル予防に取り組めるよう、具体的な知識や方法を学ぶことで、実践への意欲を高め、日々の行動変容を促していく。</p> <p>(2) 実施概要（令和7年度）</p>		
		室内型	プール型
	内容	フレイル予防に必要な、運動・栄養・口腔ケアを学ぶ総合講座（各回完結型）	水中ウォーキングを中心とした運動講座
	開催数（定員）	136回（3, 120人） ※ 年8回/1会場 （前期4回、後期4回）	9クール（180人） ※ 1クール8回制
	時間	90分/回	90分/回
	会場	地域学習センター、民間施設等（全17会場）	スイムスポーツセンター 千住温水プール 東綾瀬公園温水プール
	令和6年度実績	ア 開催数 339回（毎月開催） イ 会場数 全16会場 ※ 施設改修により未実施会場あり ウ 定員 7, 680人 エ 参加者数 6, 380人（延べ人数） 646人（実人数）	ア 開催数 7クール イ 会場数 全3会場 ※ 補修工事により1施設未実施期間あり ウ 定員 140人 エ 参加者数 135人（延べ人数） 94人（実人数）

2 現状

- (1) 運動に対する人気が高く、リピーターが多い。
 - ※ 学びの場というより、運動をする場（実践の場）として参加する方が多く、本来の事業目的と乖離した部分がある。
- (2) 募集方法を工夫しつつも、新規参加者数は伸び悩んでいる。
- (3) 上記の現状から、事業の費用対効果の改善が難しい状況である。
- (4) 各施設でも類似事業（主に運動系）は実施されている。
- (5) プール施設は、区内在住の65歳以上であれば無料で利用可能である。

3 問題（原因）分析

- (1) 実践の場へのつなぎ方について
 - はつらつ教室以外の他の事業周知が不十分であったことや、本来実践の場となり得る他の既存事業が参加者のニーズに適していなかった恐れがある。
- (2) 事業の周知方法について
 - 周知の内容や方法が固定化していたため、既存の参加者以外には事業の内容や魅力が十分に伝わっていなかった恐れがある。

4 課題

- (1) 本来の事業目的を実現し、かつ費用対効果を高めていくためには、従来の実施方法の良い部分は活かしながらも、抜本的な事業形態の見直しや、より多くの高齢者の参加につながるような周知方法を再考していく必要がある。
- (2) 一方で、従来の参加者のフレイル予防活動を継続する場は必要であると考えられるため、事業の再構築と並行して、受け皿となる実践の場確保の検討も必要である。

5 方針案

- (1) 室内型の事業形態の見直しについて
 - 現在、住区センターで好評となっている「リハビリのプロと学ぶ筋肉維持講座」を参考にし、さらに栄養・口腔の学びの要素を加えた拡充版講座として対面形式での実施を検討していく。
 - ア 開催頻度
年2期（前期・後期）
 - イ 会場
地域学習センター等
 - ウ 定員
25～40名程度
 - エ 時間
2時間程度
 - オ 既存事業との違い
 - (ア) 前期4回、後期4回の多数開催型から単発開催型に変更
 - (イ) 体操+座学のカリキュラムから専門職による実演を交えた講座形式
 - (ウ) 講座の中で、今後の実践の場の紹介時間を確保
- (2) 従来の参加者がフレイル予防活動を継続する場について
 - 費用対効果の点から現在各施設が開催している類似事業への移行も含めて関係所管との検討を行う。

令和7年度 地域包括ケアシステム推進会議
第1回 はつらつ高齢者部会

令和7年7月25日

件名	「みんなで元気アップ教室」の再構築に向けた検討について					
所管部課名	福祉部 高齢者施策推進室 高齢者地域包括ケア推進課					
内 容	<p>以下のとおり「みんなで元気アップ教室」における課題を整理し、令和8年度以降の事業再構築に向けた検討を行う。</p> <p>1 「みんなで元気アップ教室」の概要</p> <p>(1) 事業の概要 (令和7年度)</p>					
	目的	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="416 734 531 1151">みんなで元気アップ教室</td> <td data-bbox="531 734 1501 1151">元気アップサポーター養成研修</td> </tr> <tr> <td data-bbox="416 786 531 1151">フレイル予防の知識を学びながらグループワークを通じて親睦を深め、最終的には(主にウォーキングの)自主グループ創出をめざす。</td> <td data-bbox="531 786 1501 1151">グループの立ち上げや運営に興味がある方を対象に、グループワークやフレイル予防の基礎講座等を通じて、グループ活動継続のコツを学ぶ。 ※ 当初は地域における生活支援の担い手養成をめざしていた。</td> </tr> </table>	みんなで元気アップ教室	元気アップサポーター養成研修	フレイル予防の知識を学びながらグループワークを通じて親睦を深め、最終的には(主にウォーキングの)自主グループ創出をめざす。	グループの立ち上げや運営に興味がある方を対象に、グループワークやフレイル予防の基礎講座等を通じて、グループ活動継続のコツを学ぶ。 ※ 当初は地域における生活支援の担い手養成をめざしていた。
	みんなで元気アップ教室	元気アップサポーター養成研修				
	フレイル予防の知識を学びながらグループワークを通じて親睦を深め、最終的には(主にウォーキングの)自主グループ創出をめざす。	グループの立ち上げや運営に興味がある方を対象に、グループワークやフレイル予防の基礎講座等を通じて、グループ活動継続のコツを学ぶ。 ※ 当初は地域における生活支援の担い手養成をめざしていた。				
	開催数 (定員)	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="416 1151 531 1247">58クール (781人)</td> <td data-bbox="531 1151 1501 1247">10クール (136人)</td> </tr> </table>	58クール (781人)	10クール (136人)		
	58クール (781人)	10クール (136人)				
	時間	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="416 1247 531 1344">90分/回 (1クール10回制講座)</td> <td data-bbox="531 1247 1501 1344">90分/回 (1クール8回制講座)</td> </tr> </table>	90分/回 (1クール10回制講座)	90分/回 (1クール8回制講座)		
90分/回 (1クール10回制講座)	90分/回 (1クール8回制講座)					
会場	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="416 1344 531 1440">地域学習センター等 (全36会場)</td> <td data-bbox="531 1344 1501 1440">地域学習センター等 (全7会場)</td> </tr> </table>	地域学習センター等 (全36会場)	地域学習センター等 (全7会場)			
地域学習センター等 (全36会場)	地域学習センター等 (全7会場)					
令和6年度実績	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="416 1440 531 1995"> <p>ア 総開催数 57クール ※ 年2～3期(26会場) ※ 定員の都合上、一部の会場では3期実施</p> <p>イ 定員 801人</p> <p>ウ 参加者数 475人(実人数)</p> <p>エ 教室内で支援したグループ 63グループ</p> </td> <td data-bbox="531 1440 1501 1995"> <p>ア 総開催数 10クール ※ 年2期(5会場)</p> <p>イ 定員 136人</p> <p>ウ 参加者数 82人(実人数)</p> </td> </tr> </table>	<p>ア 総開催数 57クール ※ 年2～3期(26会場) ※ 定員の都合上、一部の会場では3期実施</p> <p>イ 定員 801人</p> <p>ウ 参加者数 475人(実人数)</p> <p>エ 教室内で支援したグループ 63グループ</p>	<p>ア 総開催数 10クール ※ 年2期(5会場)</p> <p>イ 定員 136人</p> <p>ウ 参加者数 82人(実人数)</p>			
<p>ア 総開催数 57クール ※ 年2～3期(26会場) ※ 定員の都合上、一部の会場では3期実施</p> <p>イ 定員 801人</p> <p>ウ 参加者数 475人(実人数)</p> <p>エ 教室内で支援したグループ 63グループ</p>	<p>ア 総開催数 10クール ※ 年2期(5会場)</p> <p>イ 定員 136人</p> <p>ウ 参加者数 82人(実人数)</p>					

2 現状

- (1) 募集方法は広報紙等からの申込と地域包括支援センター（以下、「ホウカツ」という。）による参加勧誘があるが、参加者のほとんどがホウカツによる勧誘によるものである。
- (2) コロナ禍では、各事業の中止や施設の利用制限、3密を避けた活動の推奨などの理由から、ウォーキングを主としたグループ活動でも一定数の参加者はいたが、年々減少傾向になってきている（令和4年度：647人・令和5年度：604人）。

3 問題（原因）分析

- (1) 「みんなで元気アップ教室」は、主にウォーキングの自主グループを立ち上げることを目的に置いているため、高齢者のニーズが変化中、ウォーキングへの関心が低い方や、既に個人でウォーキングに取り組んでいる方には魅力が低い事業となってしまう。
- (2) 「元気アップサポーター養成研修」がめざす地域の担い手となることへの負担感から参加を控える傾向にある。

4 課題

- (1) ウォーキングの特定の場所や道具を選ばないという利点や介護予防の視点からの効果を考慮しながらも、ウォーキングにとらわれない多様なグループ活動を後押しするようなプログラムを取り入れていく必要がある。
- (2) 地域の担い手の必要性を学ぶカリキュラムは残しつつも、過度に負担感を抱かせない工夫が必要である。

5 方針案

- (1) 「みんなで元気アップ教室」のカリキュラムをウォーキングの自主グループ創出をめざした内容に特化するのではなく、多様なグループ創出をめざした内容に変更する。
- (2) 事業の一体性や効率性をふまえ、「元気アップサポーター養成研修」は「みんなで元気アップ教室」に統合する。生活支援の担い手としてのグループ活動の重要性については、「みんなで元気アップ教室」のカリキュラムの一つとして学ぶにとどめ、参加者に過大な負担感を与えないようにする。

令和7年度 地域包括ケアシステム推進会議
第1回 はつらつ高齢者部会

令和7年7月25日

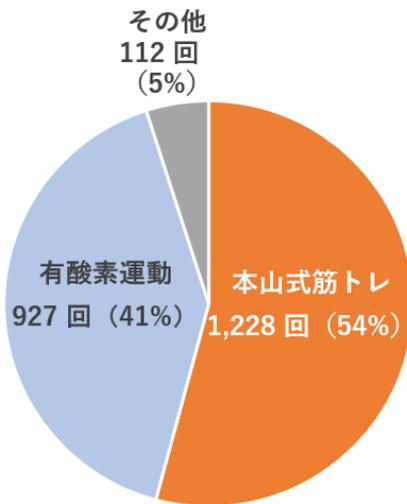
件名	「あだち脳活ラボ」の利用状況および新たな取組について																																																									
所管部課名	福祉部 高齢者施策推進室 高齢者地域包括ケア推進課																																																									
内容	<p>「あだち脳活ラボ」の利用状況および新たな取組について、以下のとおり概要を報告する。</p> <p>1 利用状況（令和7年6月末時点）【令和7年度目標値】</p> <p>(1) 「あだち脳活ラボ」登録状況（実人数） 3,159人【3,500人】 達成率：90.3%</p> <p>グラフ1:年齢別内訳</p> <table border="1"> <caption>グラフ1:年齢別内訳</caption> <thead> <tr> <th>年齢区分</th> <th>人数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>65歳未満</td> <td>1,169人</td> <td>37%</td> </tr> <tr> <td>65歳以上80歳未満</td> <td>1,528人</td> <td>48%</td> </tr> <tr> <td>80歳以上</td> <td>462人</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>65歳以上</td> <td>1,990人</td> <td>63%</td> </tr> </tbody> </table> <p>グラフ2:性別内訳</p> <table border="1"> <caption>グラフ2:性別内訳</caption> <thead> <tr> <th>性別</th> <th>人数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>女性</td> <td>2,170人</td> <td>69%</td> </tr> <tr> <td>男性</td> <td>961人</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>28人</td> <td>1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) J-MC I（もの忘れチェック）利用状況（実人数） 1,586人【2,000人】 達成率：79.3%</p> <p>グラフ3:年齢別内訳</p> <table border="1"> <caption>グラフ3:年齢別内訳</caption> <thead> <tr> <th>年齢区分</th> <th>人数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>65歳以上80歳未満</td> <td>949人</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>50歳以上65歳未満</td> <td>346人</td> <td>22%</td> </tr> <tr> <td>80歳以上</td> <td>256人</td> <td>16%</td> </tr> <tr> <td>50歳未満</td> <td>35人</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>65歳以上</td> <td>1,205人</td> <td>76%</td> </tr> </tbody> </table> <p>グラフ4:3段階評価内訳</p> <table border="1"> <caption>グラフ4:3段階評価内訳</caption> <thead> <tr> <th>評価区分</th> <th>人数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ゆうゆう (当面的間心配なし)</td> <td>1,315人</td> <td>83%</td> </tr> <tr> <td>グレーゾーン (しばらく様子を確認)</td> <td>218人</td> <td>14%</td> </tr> <tr> <td>もうちょっと※ (少しもの忘れの傾向あり)</td> <td>53人</td> <td>3%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※「もうちょっと」の判定がでた50歳以上の区民には、LINEのプッシュ通知で「あだちオレンジチェック(認知症検診)」の受診をご案内</p>	年齢区分	人数	割合	65歳未満	1,169人	37%	65歳以上80歳未満	1,528人	48%	80歳以上	462人	15%	65歳以上	1,990人	63%	性別	人数	割合	女性	2,170人	69%	男性	961人	30%	その他	28人	1%	年齢区分	人数	割合	65歳以上80歳未満	949人	60%	50歳以上65歳未満	346人	22%	80歳以上	256人	16%	50歳未満	35人	2%	65歳以上	1,205人	76%	評価区分	人数	割合	ゆうゆう (当面的間心配なし)	1,315人	83%	グレーゾーン (しばらく様子を確認)	218人	14%	もうちょっと※ (少しもの忘れの傾向あり)	53人	3%
年齢区分	人数	割合																																																								
65歳未満	1,169人	37%																																																								
65歳以上80歳未満	1,528人	48%																																																								
80歳以上	462人	15%																																																								
65歳以上	1,990人	63%																																																								
性別	人数	割合																																																								
女性	2,170人	69%																																																								
男性	961人	30%																																																								
その他	28人	1%																																																								
年齢区分	人数	割合																																																								
65歳以上80歳未満	949人	60%																																																								
50歳以上65歳未満	346人	22%																																																								
80歳以上	256人	16%																																																								
50歳未満	35人	2%																																																								
65歳以上	1,205人	76%																																																								
評価区分	人数	割合																																																								
ゆうゆう (当面的間心配なし)	1,315人	83%																																																								
グレーゾーン (しばらく様子を確認)	218人	14%																																																								
もうちょっと※ (少しもの忘れの傾向あり)	53人	3%																																																								

(3) 動画配信視聴者数（実人数）

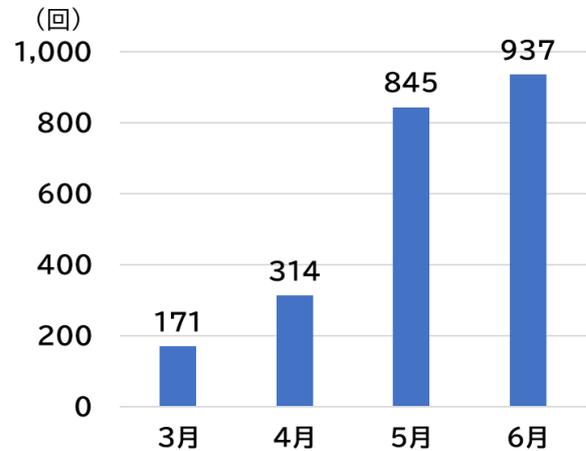
918人【1,000人】

達成率：91.8%

グラフ5:ジャンル別視聴回数内訳



グラフ6:総視聴回数の推移



2 「あだち脳活ラボ」を活用した新たな取組について

(1) 概要

「あだち脳活ラボ」のポイントが取得できる二次元コードを協力施設に常設置し、高齢者の「通いの場」として外出・運動・社会参加の習慣化を後押しする。

(2) 協力施設

- ア 地域学習センター 14か所
- イ 住区センター 51か所（鹿浜いきいき館・悠々会館含む）
- ウ 区内浴場施設 23か所

※ 協力施設は順次拡大予定

(3) 開始時期

令和7年8月上旬から順次開始予定

(4) 取得ポイント

20ポイント/各施設

※ 同施設1日1回まで

※ 取得したポイントは、QUOカードペイが当たる「あだち脳活ラボ」ガラガラ抽選への参加（65歳以上の区民のみ）や、プロフィール画像に登録された自分のキャラクター変更等に活用可能。

3 今後の方針

「あだち脳活ラボ」の利用拡大および継続利用促進のため、あだち広報やホームページ、区SNS等を活用した周知に引き続き取り組んでいく。

令和7年度 地域包括ケアシステム推進会議
第1回 はつらつ高齢者部会

令和7年7月25日

件名	令和7年度「高齢者栄養施策推進事業」の取組について
所管部課	福祉部 高齢施策推進室 高齢者地域包括ケア推進課
内容	<p>「ぱく増し」事業及び「食べてフレイル予防」事業を通じて、たんぱく質を含む食事をしっかり摂取することが、フレイル予防につながることを普及啓発する。</p> <p>1 「ぱく増し」事業について</p> <p>(1) 広報で年3回（8月25日号、11月25日号、1月25日号）「ぱく増し」のコラム、1月25日号で「ぱく増し月間」の特集記事の掲載を予定</p> <p>(2) LINE及びAメールで「ぱく増しレシピ」の配信（年4回予定）</p> <p>(3) 2月の「ぱく増し月間」での啓発</p> <p>ア 「ぱく増し月間」のプレゼント企画について「例：私のぱく増し術」を書いて応募してもらおう等、実践に繋がる企画を検討する。</p> <p>イ スーパー、コンビニ、食品メーカー等とコラボし、簡単で安価なレシピの情報発信を行う。</p> <p>ウ 地域学習センター、図書館にミニコミ紙特集記事の依頼、「ぱく増し」教室の開催、「ぱく増し」コーナーの設置等を打診する。</p> <p>2 「食べてフレイル予防」事業について</p> <p>(1) 集団支援</p> <p>ア ぱく増し栄養講座：通いの場（住区センター等）で実施 回数：前期40回、後期39回 計79回予定（昨年69回）</p> <p>イ リハビリのプロと学ぶ筋肉維持講座 講師：あだちPOSネットワークより理学療法士・作業療法士 回数：10回（昨年6回）</p> <p>ウ てぬぐい体操動画の作成 昨年度はあだちPOSネットワークに考案・監修いただき「てぬぐい体操のリーフレット」を作成。今年度は「てぬぐい体操の動画」を作成し、動画 de あだちや SNS 等を活用して広く周知する（9月末完成予定）。</p> <p>(2) 個別支援</p> <p>ア 対象者 令和6年度後期高齢者医療健診受診者中、75～79歳（要支援・要介護等除く）で、低栄養のリスクの高い方（BMIが女性18.5未満、男性20未満かつ6か月間に2～3kgの体重減少があると回答）</p>

対象者135名（男性62名、女性73名 ※昨年117名）

イ 実施内容

3～4か月間に2回訪問、1回電話での栄養相談を実施（5月から開始）

3 今後の方針

「ぱく増し月間」プレゼント企画については、「ぱく増し」の認知度を上げる取組みから、「ぱく増し」の実践を促す取組みに変更する。また物価高騰を考慮し、安価で栄養バランスのよい選び方や簡単レシピの啓発を行う。

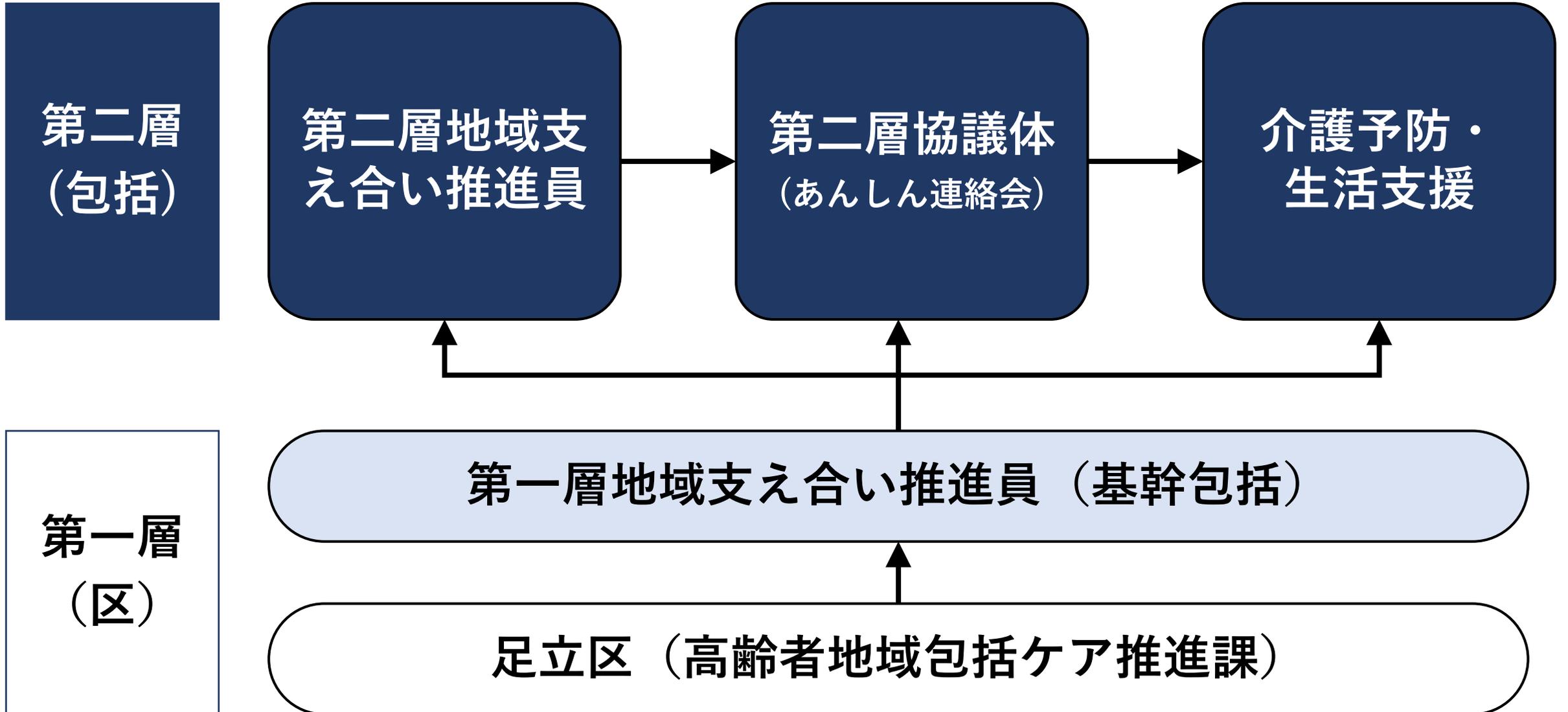
「ぱく増し」と「てぬぐい体操」を組み合わせることで、栄養と運動の相乗効果を図り、フレイル予防を推進する。

令和7年度 第1回はつらつ高齢者部会

生活支援体制整備事業の 取組状況について

足立区基幹地域包括支援センター

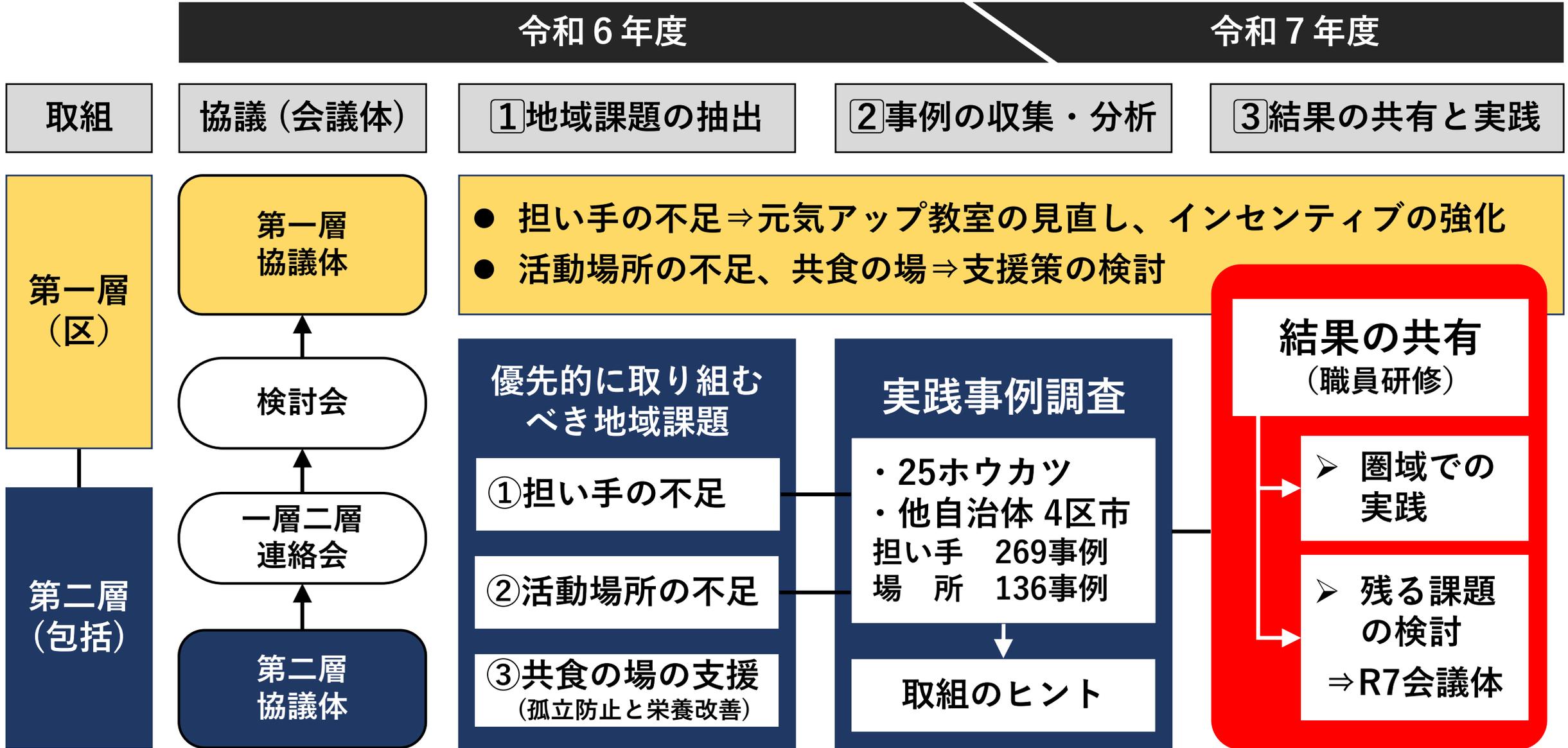
生活支援体制整備事業の概要



第二層推進員の業務内容

- ① 地域資源の把握(通いの場リスト)
- ② 自主グループの創出および継続支援
- ③ 担い手となる人材への活動の場の案内
- ④ 住民のニーズに応じた地域資源の案内
- ⑤ 絆のあんしんネットワーク連絡会(第二層協議体)の開催
- ⑥ 地域課題の検討、ネットワーク構築
- ⑦ ブロック単位での情報交換、課題・取組の他包括への発信

令和6-7年度の取組の全体像



【1】地域課題の抽出

地域課題

① 担い手の不足

- ◆ 元気アップ教室の参加者が少ない。ウォーキングに特化した仕組みに限界を感じる
- ◆ あんしん協力員の高齢化が進んでいる。協力員を拡大していくことが難しい
- ◆ 地域の担い手の高齢化が加速している。担い手の開拓が出来ていない

② 活動場所の不足

- ◆ 空家、空き店舗の活用や町会会館など活動拠点の確保に関するサポート制度が少ない
- ◆ 空き家バンクのようなものがあるとよい。空家・空きスペース・空き店舗など曜日によって貸してくれる場所が増えるといい

③ 共食の場の支援

- ◆ 運動習慣がない人もおり、運動だけで引っ張ることの限界を感じる。コロナで中断していた共食の場を復活したい
- ◆ 低栄養、フレイル、閉じこもり、男性の孤立から孤立、孤食に陥っている。共食の場が必要だが自走する資金がない

一層二層連絡会での意見（抜粋）

【2】事例の収集と分析

- 25包括＋他4自治体の「担い手発掘の取組」を収集(269事例)
- 分析結果を「担い手の発掘 10のヒント」に集約

担い手の発掘 10のヒント

- ① 住民の関心や特性から、住民の力を引き出す
- ② 支援対象者を活動者にする
- ③ エリア内の事業所や事業、活動を活かす
- ④ 地域団体の中に入り、参加者を仲間に引き込む
- ⑤ ボランティアセクターの力を活かす
- ⑥ 行事の企画をきっかけに話し合う機会をつくる
- ⑦ 相談者の声に耳を傾け、関係構築をはかる
- ⑧ 地域住民の関係者が地域住民を誘う
- ⑨ 地縁(団体)の力を借りる
- ⑩ 自らの法人・職場で協力する体制をつくる

【3】結果の共有と実践



包括職員研修(2025/5/27)
他4自治体の推進員を招いて開催

「担い手の発掘 10のヒント」は今後の業務に活かせると思いますか？

- とても活かせる 57.8%
- 活かせる 42.2%

(自由回答)

「二層業務の中だけではなく、総合相談など様々な業務の中につながるきっかけがあると学ぶことができた」

「相談者や支援者も担い手になり得るという発想は今までなかった。少し視線を変えればそのような方の発掘に繋がるのかなと思った」

令和7年度 第一層の取組予定

優先的に
取り組むべき
地域課題

① 担い手の
不足

② 活動場所の
不足

③ 共食の場の
支援

協議の場

- ① あんしん連絡会支援（100回）
- ② 一層二層連絡会（4回）
- ③ 生活支援体制整備事業検討会（3回）

包括支援

- ① 包括職員研修（2回）
- ② 二層業務相談会（10枠）

資源開発

- ① 通いの場交流会
- ② 共食の場づくり情報交換会
- ③ その他、生活支援の取組支援
※次頁「生活支援の取組例」参照



[参考] 生活支援の取組(例)

特技を活かした生活支援



R5 一ツ家 ※傘の修理の様子

有償家事援助の仕組みを活用した生活支援

送迎支援



R5 あだち

認知症カフェへの送迎を行う自主活動の立ち上げ支援

食料支援・買い物支援



R5 本木関原・あだち・基幹・関原

食料配布活動に用いる寄附食材を集める取り組み